

無為の生き方

十月五日は達磨忌、九月二十九日は両祖忌（道元禪師、瑩山禪師の命日）です。

武帝「朕、即位以来、寺を造り、経を写し、
僧を渡すこと挙げて記すべからず、何の功德か有る」

達磨「無功德」



無功德



祖師様方に因んだ「山居」と題する道元禪師の偈頌（仏を讃える詩）を紹介致します。

生来祖道我伝東

せいらい そどう ひんがし
西来の祖道、我れ東に伝う。

瑩月耕雲慕古風

みや
月を瑩き、雲を耕して、古風を慕う。

世俗紅塵飛豈到

こうじん あ いた
俗世の紅塵、飛んで豈に到らんや。

深山雪夜草庵中

そうあん うち
深山の雪夜、草案の中。

（訳）

釈尊から伝わってきた正しい仏法は達磨大師がインドから中国に伝え、私が日本に伝えた。

そして、山深くに大自然とともに生きる古来の仏道を行っている。

俗世間の煩わしきは、ここまでは飛んでくることはあるまい。

この山深くの、雪の降る夜の草庵で修行する私のもとまでは。

この詩は永平寺で詠まれた詩でしようか、俗世間の煩わしさを離れて修行に専心している様子、道元禪師の安穩で静寂な境涯が示されています。

世の中の多くの行為は、結果を期待してしまいます。受験に合格するために勉強する。昇進のために、昇給のために一生懸命働く。この「ため」というのが「有為」です。そして「有為」の世界には強い自己意識が動きます。いわゆるエゴです。自分と他を対立させ、比較し、競争し、そしてそこに優劣を決めて、より高い地位や名誉を願い、より多くの財産を求めます。それが良いとか悪いとかということではありません。しかし、この世は諸行無常、諸法無我の世界です。自分の思うように結果が伴う事ばかりではなく、多くの苦悩が伴います。

一般社会はこの「有為」の生き方で成り立っていますが、それを超えて「無為」に生きるのが、すなわち出家僧侶の生き方です。

道元禪師は坐禅においても悟り（結果）を求めない「只管打坐」を強調されました。「無為」のあり方こそ平安な世界、仏の世界であると示されたのです。

ご先祖様の供養と共に、この仏の世界を強い意志で相承（継承）された祖師様方に対しても感謝の気持ちで手を合わせましょう。